

本時のねらい（わかる学力）

複数の資料を読み取り、徳川綱吉がつくろうとした社会とその基となる要素を多面的・多角的に自分の言葉で表現する。

授業展開

前提問題

「どうして日常生活の中で上下関係があるのだろう。」
→社会がうまく回るから。都合が良いから。

導入問題

【徳川綱吉の政策のねらいは何だろう。】

個別探究 I

○資料を読み取り、理由をワークシートに記入する。

協同探究

○全体で意見交流を行う。

《予想される生徒の反応例》

- ・資料1…武士や大名の経済力や軍事力を弱める。徳川綱吉と大名との間に主従関係を確認させる。無駄な死を出さない。命を大事にさせるため。大名に礼儀を身に付けさせたいから。
- ・資料2…江戸幕府の軍事力をなくす。無駄なものをなくし、幕府の儉約する様を人々に示すため。今までの時代と違うことを示すため。
- ・資料3…「天下一」の称号を将軍だけのものにするため。上下関係（身分）をはっきりさせるため。社会全体の引き締めを図るため。
- ・資料4…綱吉と大名の間に主従関係があることを示し、忠誠心を持たせるため。身分制を固めるため。大名に賢くなってほしいから。
- ・資料5…人々を野良犬の被害から守るため。生き物を大切にすることを示すため。命を大切にすることを示すため。弱者を守るため。

【追究型発問 I】（切り返し型）

「各資料の政策を行った理由は何だろう。」

→将軍としての地位を高めるため。人々に身分を意識させるため。社会から武力や軍事力をなくすため。

【関連付け発問】

「各資料に共通することは何だろう。」

→身分を固める。平和な社会を実現しようとしている。人々に礼儀の心を持たせたい。

【追究型発問 II】（設定型）

「徳川綱吉の政治によって世の中にどのような変化が生じたのだろう。」

→人々の意識的改革（身分に応じた生活を送ること、命や礼儀を大切にすること）が進んだ。平和な世の中になった。社会全体の身分制度が強化された。

展開問題

「徳川綱吉はどんな社会をつくりたかったのだろう。」

【導入問題のポイント(よさ)】

- 徳川綱吉の政策は現代の生きる私たちの意識や倫理観に影響を与えているものが多く、日常生活の中から自分事として考えることができる。

【考えやすい工夫】

- 全ての資料から読み取る必要はなく、自分が読み取りやすい資料から見てもよい。
- 複数の資料を提示することで、徳川綱吉の政策を多面的・多角的に理解し、関連づけがしやすい。

【協同探究の進め方、工夫】

- 徳川綱吉が武断政治でなく文治政治を行い、人々の身分を明確にし、自分自身の権威を高めるとともに人々の意識改革を行い、江戸時代初期（家康～家光）よりも安定した平和な社会の実現につなげたことに気づかせる。
- 追究型発問や関連付け発問により、目的や理由の共通点を見だし、関連付けることができる。

【展開問題のポイント(よさ)】

- 徳川綱吉が目指した社会を考察することで、江戸時代初期との平和を構成する条件の違いに気づき、徳川綱吉の課題解決に向けた意識やその背景、行動に気づくことができる。